

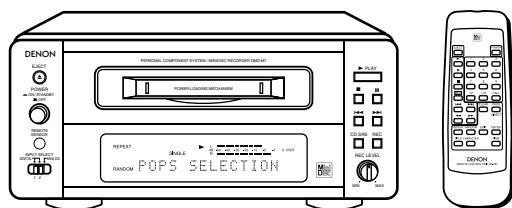
DENON

取扱説明書

DMD-M7

MINIDISC RECORDER

ミニディスク レコーダー



安全にお使いいただくために—必ずお守りください。

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目次

はじめに	1 使用上のご注意……………2～6 2 取り扱い上のご注意……………7 3 本機の特長……………8 4 付属品について……………8 5 保証とサービスについて……………9
接続	6 接続のしかた……………10
準備	7 各部の名前とはたらき……………11～14 8 リモコンについて……………15、16 9 ミニディスクについて……………17
操作	10 通常の再生のしかた……………18 11 いろいろな再生のしかた (1) 再生途中で一時的に止めておくとき……………19 (2) 再生途中で曲の頭出しをするとき……………19 (3) 早聞きしながら好きな部分を探すとき……………20 (4) 好きな曲を聞くとき……………21 (5) 順不同に聞くとき……………21 (6) 聞きたい曲を好きな順番に聞くとき……………22 (7) くり返して聞くとき……………23 12 録音のしかた……………24～26 13 いろいろな録音のしかた……………27 14 編集のしかた……………28～36 15 システム機能について……………36～42
その他	16 ミニディスクの規格上の制約について……………42 17 メッセージについて……………43 18 故障かな?と思ったら……………44 19 主な仕様……………45

1 使用上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害のみの発生が想定される内容を示しています。

[絵表示の例]



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



警告

安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。

お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。



電源プラグをコンセントから抜け

内部に異物を入れない

ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。



使用上のご注意(つづき)

警告 つづき

安全上お守りいただきたいこと

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。



電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



キャビネット(天板・裏ぶた)を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。

また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など)は接続しないでください。



雷が鳴り出したら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



使用上のご注意 (つづき)

⚠ 警告 つづき

取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。



水場での使用禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水
などが入った容器を置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



この機器の上に小さな金属物を置かない
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグを
コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火
災・感電の原因となります。



⚠ 注意

安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜くときは
電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って
抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあり
ます。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。



ディスク挿入口に手を入れない
特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。
万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコン
セントから抜いて販売店にご連絡ください。



指を挟まれないように
注意

レーザー光源をのぞき込まない
レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。



使用上のご注意(つづき)

⚠ 注意 つづき

安全上お守りいただきたいこと

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



置き場所について

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ

湿気やほこりの多いところ

直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ



壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



使用上のご注意 (つづき)

⚠ 注意 つづき

取り扱いについて

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線・機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。



5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。

なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。



2 取り扱い上のご注意

結露現象について

結露とは

冬期に暖房をした部屋の窓ガラスに水滴がつくような現象をいいます。

結露が起こる条件は

冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると本機内部の動作部に露がつき、正常に動作しなくなることがあります。

結露は、夏にエアコンの風が直接当たるところでも起こることがあります。その場合には本機の設置場所を変えてください。



結露後の処置は

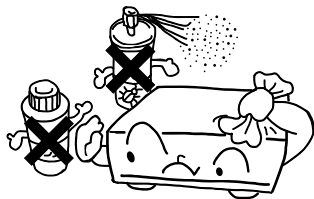
結露が起こった場合は、電源を入れてしばらく放置しておいてください。周囲の状況によって異なりますが、1～2時間で使用できるようになります。

お手入れについて

キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取る時は柔らかい布を使用して、軽くふきとってください。

化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。



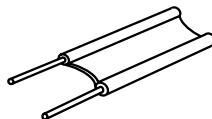
設置の際のご注意

本機やマイクロコンピュータを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合は次の点に注意してください。

本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

チューナーやテレビのアンテナ線を電源コードおよび接続コード類から離して設置してください。

特に室内アンテナや300 フィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75 同軸ケーブルのご使用をおすすめします。



300 フィーダー線



75 同軸ケーブル

使わないときは

ふだん使わないとき

電源を切ってください。

外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



移動させるとき

衝撃を与えないでください。



ミニディスクを取り出し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、他のオーディオ機器との接続コード類を取り外してから移動させてください。

3 本機の特長

1. クリアな音質

デジタル記録方式の採用により、クリアな再生音が得られます。

2. あらゆるデジタルソースのデジタル録音に対応

『サンプリングレートコンバーター』の搭載により、MDやCDはもちろん、BS放送やDATなどのデジタル信号の音質を劣化させることなく、デジタル録音をおこなうことができます。

デジタル機器を2台まで接続できます。

3. 多彩な編集機能

曲を分ける、つなぐ、移動するなどの編集機能により録音されたディスクの中身を自在に操作し、ディスク名や曲のタイトルを入力することでオリジナルのディスクを簡単につくることができます。

4. 豊富な再生機能

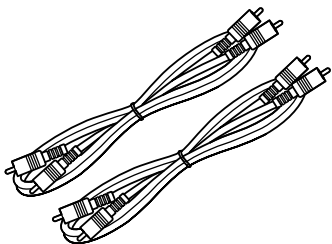
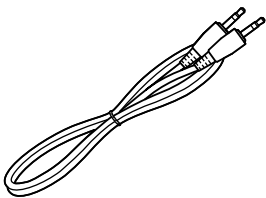
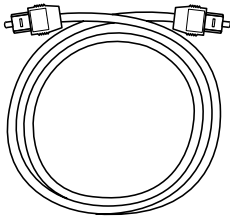
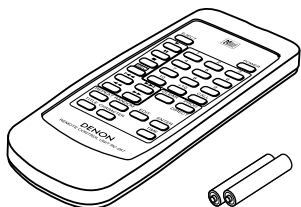
プログラム再生、ランダム再生、全曲リピート再生、1曲リピート再生などの操作ができます。

5. 便利なシステム機能

D-M7シリーズとシステムを接続して使用すると、CDシンクロ録音、オートファンクション、オートパワーオンなどの操作が簡単にできるシステム機能を装備しています。また、システム D-M7に付属のシステムリモコン (RC-828) では、すべてのシステムユニットの操作をおこなうことができます。

4 付属品について

本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用前にご確認ください。

ステレオ音声コード 2本	システムコード 1本	光接続コード 1本
		
リモコン (RC-267) 1個	取扱説明書 (本書) 1冊	
単3乾電池 2本	サービス網一覧表 1枚	
	保証書 (梱包箱に貼り付けられています)	

5 保証とサービスについて

- ① この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げ販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。
- ② 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
保証書の記載内容により、お買い上げ販売店または最寄りの当社営業所（コロムビアサービス網一覧表参照）が修理を申し受けます。（但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となります。）その他詳細につきましては、保
- ③ 保証期間後の修理については、お買い上げ販売店または最寄りの当社営業所にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- ④ 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
- ⑤ 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げ販売店または最寄りの当社営業所にご相談ください。

ステレオ音のエチケット



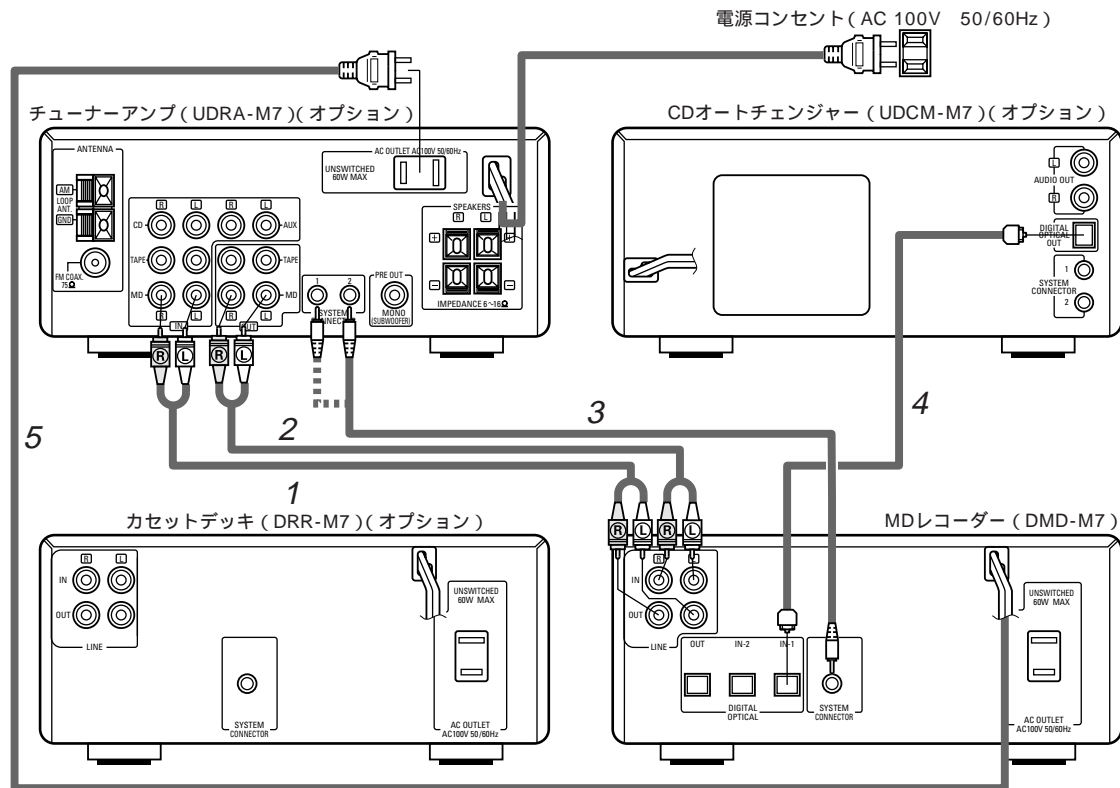
音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。

特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

6 接続のしかた

D-M7シリーズ以外のプリメインアンプと接続する場合は、3の接続をおこなう必要はありません。



1 付属のステレオ音声コードで、本機のライン出力端子 (LINE OUT) とチューナーアンプの入力端子 (MD) を接続します。

2 付属のステレオ音声コードで、本機のライン入力端子 (LINE IN) とチューナーアンプの出力端子 (MD) を接続します。

3 付属のシステムコードで、本機のシステム端子 (SYSTEM CONNECTOR) とチューナーアンプまたはCDオートチェンジャーのシステム端子 (1または2) を接続します。

4 付属の光接続コードで、本機のデジタル入力端子 (DIGITAL OPTICAL IN 1または2) とCDオートチェンジャーのデジタル出力端子 (DIGITAL OPTICAL OUT) を接続します。

5 本機の電源プラグをチューナーアンプのコンセント (AC OUTLET) に差し込みます。

D-M7シリーズ以外のプリメインアンプと接続しても使用することができます。この場合、CDシンクロ録音などすべてのシステム機能ははたらかません。

システム動作について

各ユニット間のすべてのステレオ音声コードとシステムコードを接続しないと、タイマー機能やオートオン機能などのシステム動作がおこなわれません。各ユニット間のすべての接続コードを完全に接続してください。

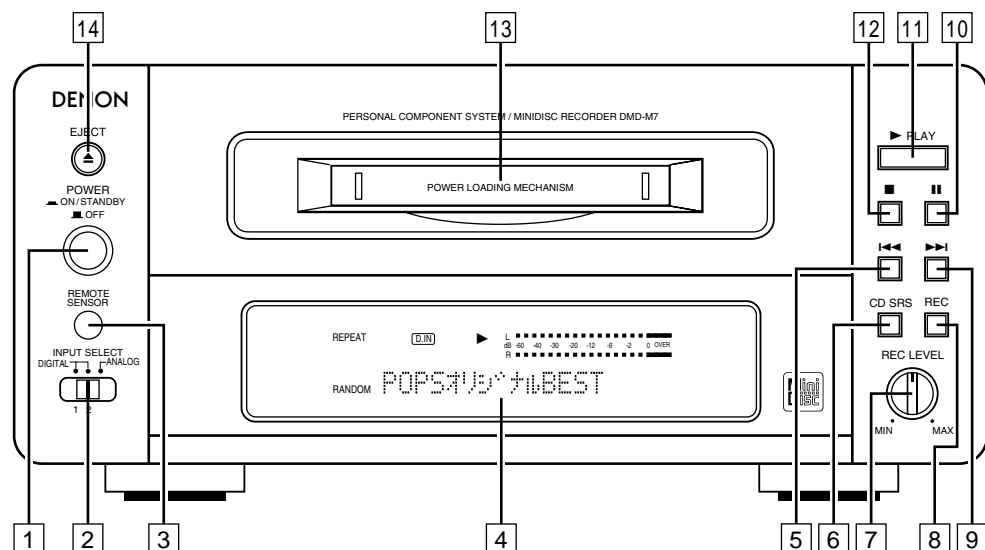
動作中にシステムコードなどを抜くと誤動作の原因になりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後で接続の変更をおこなってください。

ご注意

すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な差し込みは雑音発生の原因になります。
電源コードと接続コード類を一緒に束ねると、ハムや雑音の原因になることがあります。
一度電源プラグをコンセントから抜いた場合は、約5秒程度経ってからもう一度コンセントに差し込んでください。

7 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル



1 電源ボタン (POWER)

押すと電源が入り、もう一度押すとスタンバイ状態になります。(通電状態)

スタンバイ状態のときに、ディスク挿入口にディスクを差し込むと自動的に電源が入り、ディスクを引き込みます。

2 入力切り替えスイッチ (INPUT SELECT)

録音する入力ソースを切り替えるときに使用します。(24、25ページ参照)

録音中は切り替えられません。録音一時停止中または停止中に切り替えてください。

3 リモコン受光部 (REMOTE SENSOR)

付属のリモコン (RC-267) をこの受光部に向けて操作してください。

本機をD-M7シリーズとシステム接続をしているときは、チューナーアンプ (UDRA-M7) に向けて操作してください。

4 ディスプレイ

14ページを参照してください。

5 オートマチックサーチ・リバーズボタン (◀◀◀)

聞きたい曲の頭出しをおこなうときに押します。(19ページ参照)

6 CDシンクロ録音ボタン (CD SRS)

D-M7シリーズとシステム接続をしているとき、ワンタッチでCDの録音をおこなうときに押します。(38、39ページ参照)

7 録音レベル調整つまみ (REC LEVEL)

アナログ入力の録音レベル (音量) を調整するときに使用します。

デジタル録音時には効きません。

8 録音ボタン (REC)

録音するときに押します。(24、25、39、40ページ参照)。このボタンを1回押すと、録音一時停止状態になります。

録音一時停止状態のときにプレイボタン (▶) (PLAY) を押すと、録音をはじめます。

9 オートマチックサーチ・

フォワードボタン (▶▶▶)

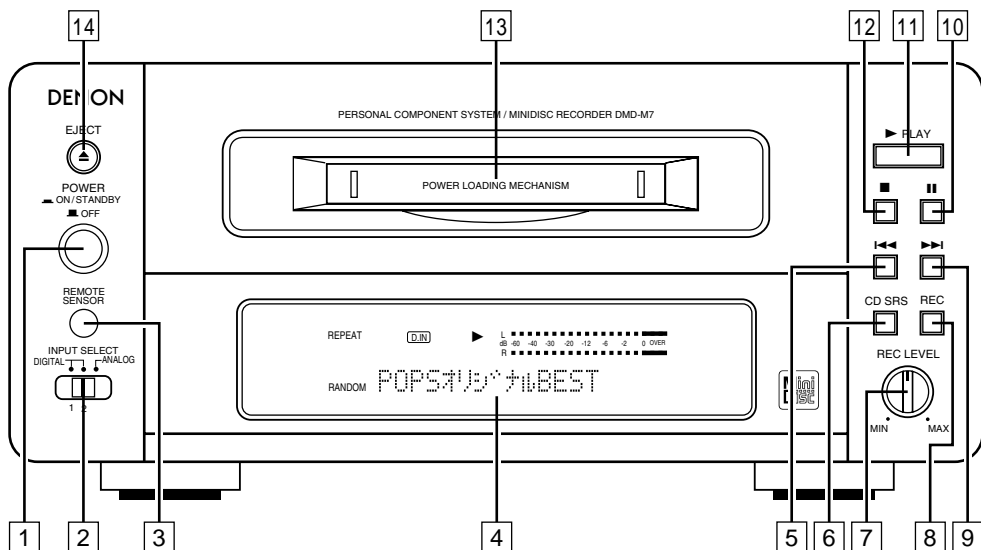
聞きたい曲の頭出しをおこなうときに押します。(19ページ参照)

10 ポーズボタン (||)

再生または録音を一時停止するときに押します。(19ページ参照)

再び再生をはじめるときは、プレイボタン (▶) (PLAY) を押してください。

各部の名前とはたらき (つづき)



11 プレイボタン (▶PLAY)

再生または録音をはじめるときに押します。
録音中に押すと曲番が変わります。

12 ストップボタン (■)

再生または録音を停止するとき、および編集操作を取り消すときに押します。

13 ディスク挿入口

ディスクを差し込むと自動的に引き込みます。
ディスクは正しい方向に差し込んでください。

14 イジェクトボタン (▲EJECT)

ディスクを取り出すときに押します。
録音や編集を行った場合には、ディスクを取り出すとき同時にTOCの書き込みが行われます。

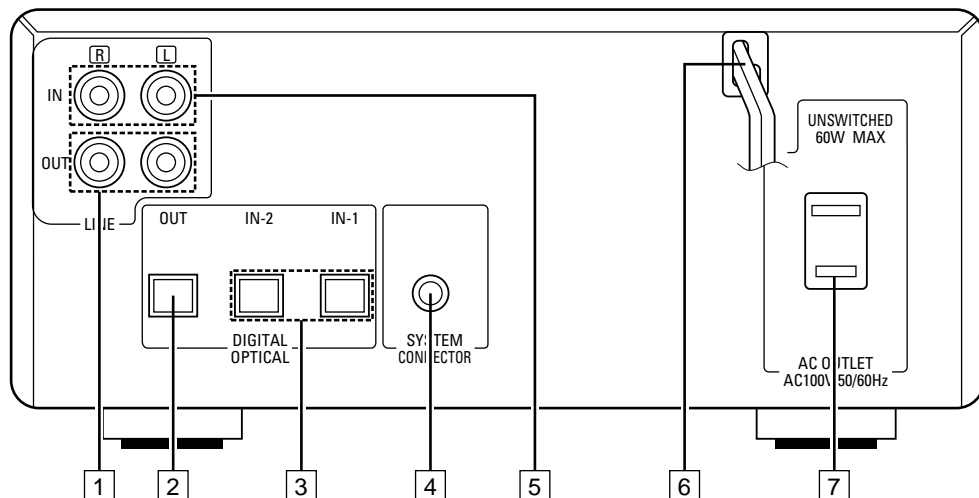
ディスクを取り出すときのご注意

イジェクトボタン (▲EJECT) を押した後、ディスクが出てくる途中でディスクを押し戻さないでください。

再びディスクを装填するときは、出てくるディスクの動きが止まってから押し込んでください。

各部の名前とはたらき (つづき)

(2) リアパネル



- 1 ライン出力端子 (LINE OUT)
チューナーアンプの入力端子 (MD) に接続します。

- 2 デジタル出力端子
(DIGITAL OPTICAL OUT)
デジタルデータを光で出力します。
市販のデジタルプロセッサーまたはD/Aユニットのデジタル入力端子 (OPTICAL) に接続します。
接続する光接続コードについては、最寄りの当社『お客様相談センター』または営業所にご相談ください。

- 3 デジタル入力端子
(DIGITAL OPTICAL IN 1,2)
デジタルデータを光で入力します。
CDプレーヤー、BS放送チューナー、CS放送チューナー、DATデッキまたは本機以外のMDレコーダーなどのデジタル出力端子 (OPTICAL) に接続すると、これらの機器の音声をデジタル録音することができます。この場合、入力切り替えスイッチ (INPUT SELECT) を『DIGITAL 1または2』に切り替えてください。

- 4 システム端子
(SYSTEM CONNECTOR 1,2)
D-M7シリーズとシステム接続をするときに、付属のシステムコードで他の機器と接続します。

- 5 ライン入力端子 (LINE IN)
チューナーアンプの出力端子 (MD) に接続します。

チューナーアンプに接続された他の機器の音声を本機で録音することができます。この場合、入力切り替えスイッチ (INPUT SELECT) を『ANALOG』に切り替えてください。

- 6 電源コード
チューナーアンプ (UDRA-M7) のACアウトレット (AC OUTLET) または壁の電源コンセントに差し込んでください。

ご注意

電源プラグをコンセントから抜いたときでも録音や編集された目次情報 (TOC) を記憶するために、本機ではバックアップ機能が自動的にはたります。このバックアップ時間は2、3日となっていますので、録音や編集後はすぐにディスクを取り出すかリモコンでスタンバイ状態にしてください。(TOCが書き込まれます。)
TOCの書き込みが行われずバックアップが切れた場合は、録音や編集された内容が消去され、回復できません。(17ページ参照)

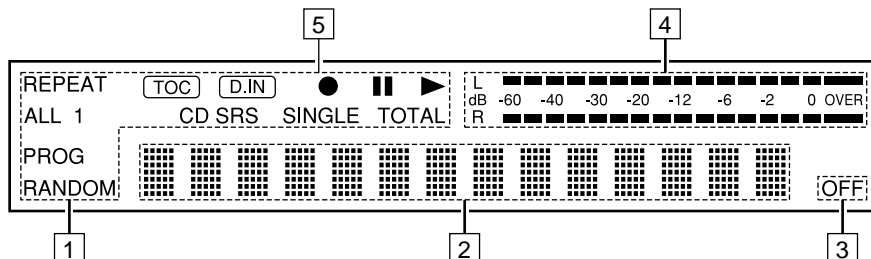
- 7 ACアウトレット (AC OUTLET)
D-M7シリーズ専用です。UDCM-M7またはDRR-M7を接続してください。
電源ボタン (ON/STANDBY) と連動しません。

ご注意

接続できる機器の消費電力は最大60Wです。それ以上の機器は接続しないでください。

各部の名前とはたらき (つづき)

(3) ディスプレイ

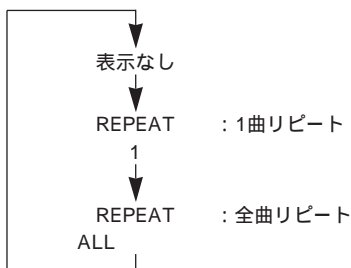


1 各種モード表示部

各種モードの状態を表示します。

・ REPEAT :

リピートボタンを押すたびに、次のように点灯します。(通常の再生時のみ)



・ PROG :

プログラム選曲およびプログラム再生のときに点灯します。

・ RANDOM :

ランダム再生のときに点灯します。

・ TOC :

録音、消去およびタイトル入力などの編集操作がおこなわれ、ミニディスクの内容が変更されているときに点灯します。

・ D.IN :

デジタル入力 (DIGITAL) を選択しているときに点灯します。

録音動作後に点滅したときは、デジタル入力端子の接続を確認してください。

・ ● :

録音中または録音一時停止中に点灯します。

・ || :

一時停止中に点灯します。また、一時停止中のマニュアルサーチ時には点滅します。

・ ► :

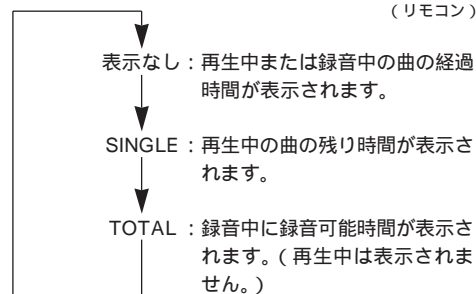
再生中に点灯します。また、再生中のマニュアルサーチ時には点滅します。

・ CD SRS :

CDシンクロ録音中に点灯します。

・ SINGLE, TOTAL :

タイムボタンを押すたびに、次のように点灯します。



2 マルチ表示部

曲数、曲番、再生時間、タイトル、各種動作内容、メッセージなどが表示されます。

3 スタンバイ表示部

スタンバイ状態のときに点灯します。

4 レベルメーター表示部

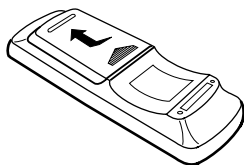
再生のときは再生レベル、録音のときは録音レベルが表示されます。

8 リモコンについて

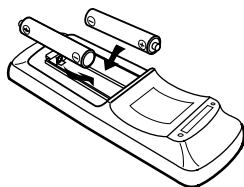
付属のリモコン（RC-267）を使用すると、離れたところから本機をコントロールすることができます。

（１）乾電池の入れかた

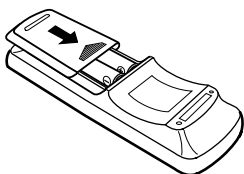
リモコンの裏ぶたを外してください。



単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。



裏ぶたを元通りにしてください。



ご注意

リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
1年経っていてもリモコンをチューナーアンプの近くで操作してチューナーアンプが動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。
新しい乾電池と交換するときはリモコンに使用している乾電池を取り出し、約2分間経過してから新しい乾電池を入れてください。
乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
破損、液漏れの恐れがありますので、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入したりしないでください。
リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよくふきとってから新しい乾電池を入れてください。

（２）リモコンの使いかた

リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けて使用してください。

D-M7シリーズをシステム接続して使用するときは、チューナーアンプ（UDRA-M7）に向けて操作してください。

直線距離で約8m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。

リモコン受光部を基準にして左右30°までの範囲で操作できます。

ご注意

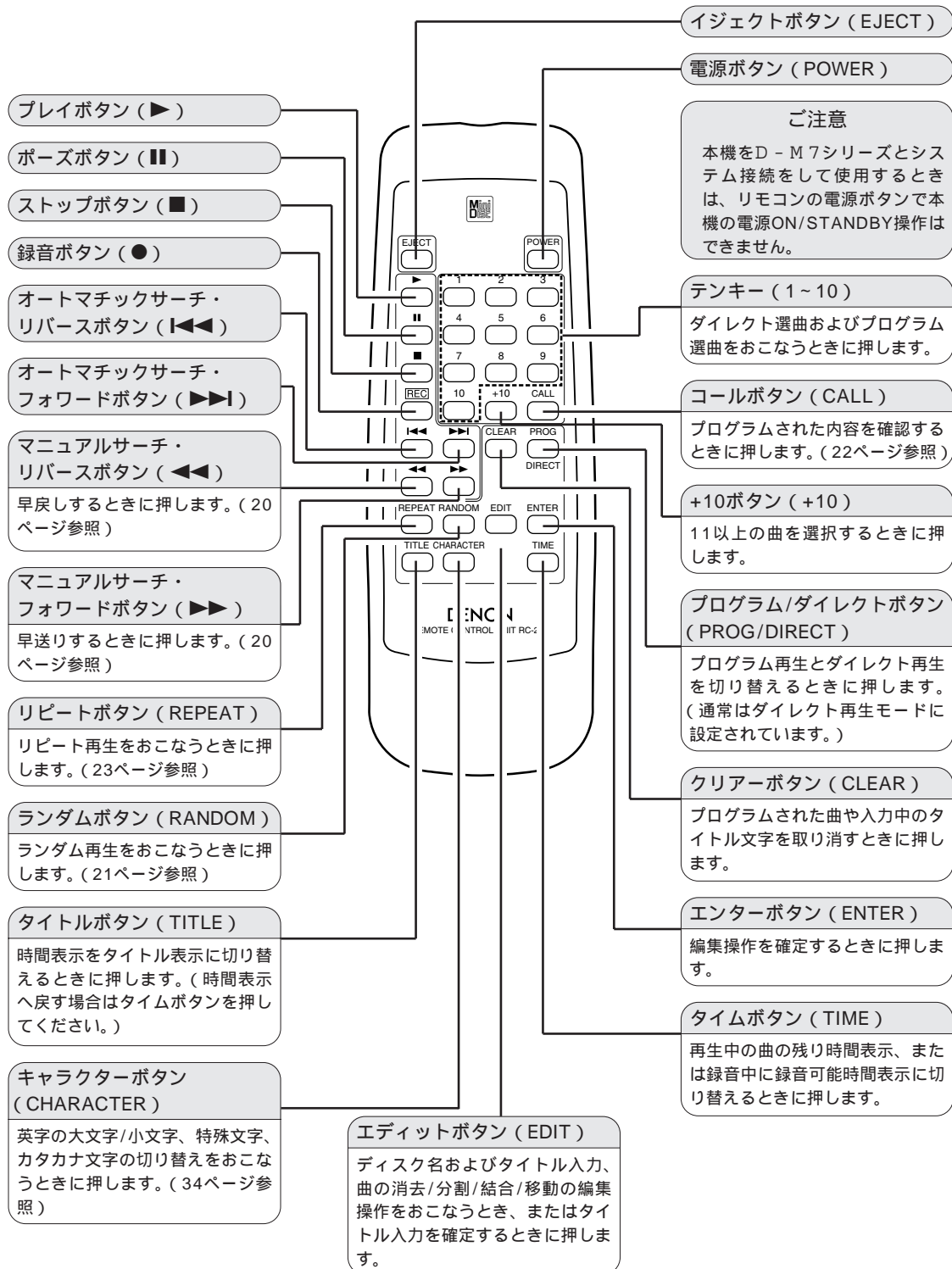
リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。

本体とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

リモコンについて(つづき)

(3) リモコンボタンの名前とはたらき

特に説明のないボタンは、本体と同じはたらきをします。(11、12ページ参照)



9 ミニディスクについて

ミニディスクはコンパクトなサイズで、最大74分の録音/再生ができます。

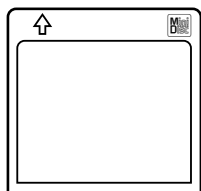
ミニディスクには、再生専用のディスクと録音用のディスクがあります。

再生専用ディスク

再生のみが可能なディスクで、市販のミュージックMDソフトはこのタイプです。

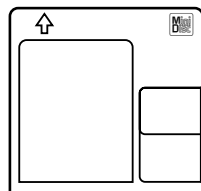
再生専用ディスクはコンパクトディスク（CD）と同じ光ディスクです。

曲の編集などはおこなえません。



録音用ディスク

録音/再生が可能なディスクで光磁気ディスクを使用しており、磁界変調方式で録音をおこないます。書き替えも可能です。

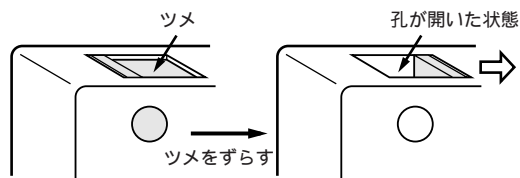


誤録音/誤消去防止ツメについて

録音用ディスクには誤録音や誤消去を防止するためのツメがついています。

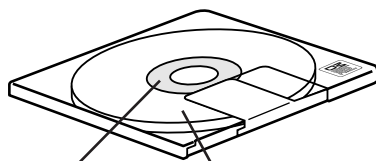
録音された内容を誤って消さないために、誤録音/誤消去防止ツメをずらして孔を開けた状態にしてください。（下図参照）この状態にすることで録音や消去などの編集ができます。

再び録音や消去などの編集をおこなう場合は、ツメを元に戻して孔を閉じてください。（下図参照）



ディスクの書き込みについて

ミニディスクには曲や音声を録音する部分と、曲番や曲名などの情報を記録する部分（TOC）があります。



曲番や曲名などを記録する部分（TOC）

トック
TOCとは

ミニディスクは音声を録音した後で、曲を認識するための目次情報（TOC：Table of Contents）を記録します。再生するときはこのTOCを手がかりとします。また、曲の編集はTOCを書き替えることによりおこなわれます。

このTOCは、録音または編集の後にイジェクトボタン（▲）を押してディスクを排出する操作と、電源ボタン（POWER）を押して電源をスタンバイ状態にする操作によりディスクに書き込まれるようになっています。

書き込みをはじめると“TOC”表示が点滅します。このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。TOCが正しく書き込まれずに録音や編集された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

取り扱いについて

ミニディスクはカートリッジの中にディスクが収納されているため、汚れや傷を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。しかしカートリッジの汚れやソリなどが誤動作の原因になることもあります。次のことに注意して美しい音をお楽しみください。

ディスク面に直接触れないでください。

シャッターを手で開けないでください。

ホコリやチリ、湿気の多いところには置かないでください。

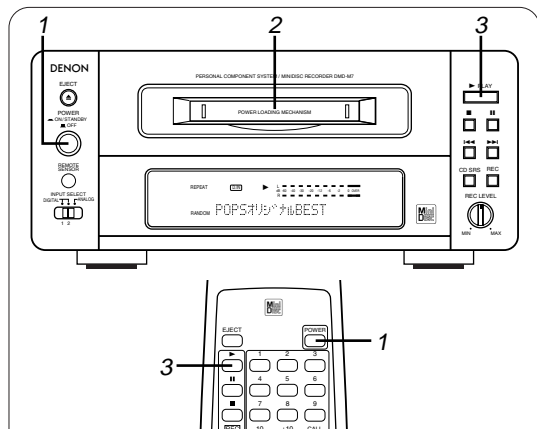
直射日光が当たるところなど温度の高いところには置かないでください。

お手入れについて

カートリッジの汚れ、ホコリなどは無理な力を加えずに乾いた布で拭き取ってください。

10 通常の再生のしかた

(1) 再生のはじめかた



1 電源を入れます。

POWER ON/STANDBY (本体) POWER (リモコン)

2 再生用のディスクを入れます。

ディスクを入れるときは、ディスク上面の矢印の向きに従ってディスク挿入口に差し込んでください。ディスクは自動的に引き込まれます。

Disc Set

(右に続きます。)

TOC Reading

↓

ディスク名

POPS SELECTION

↓

ディスク名が入力されていない場合、ディスク名は表示されません。

↓

収録曲数 収録時間

12Tr 62m 03s

3 プレイボタンを押します。

再生をはじめます。

PLAY (本体) (リモコン)

↓

曲名

BOY MEETS GIRL

↓

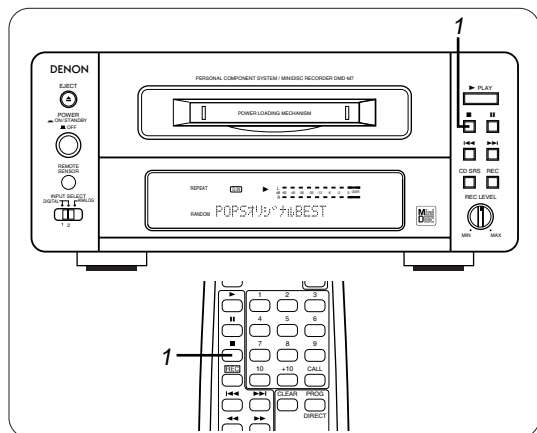
曲名が入力されていない場合、曲名は表示されません。

↓

再生中の曲番 曲の経過時間

01Tr 05m 28s

(2) 再生の止めかた



1

1 再生中にストップボタンを押します。

再生が停止します。

STOP (本体) (リモコン)

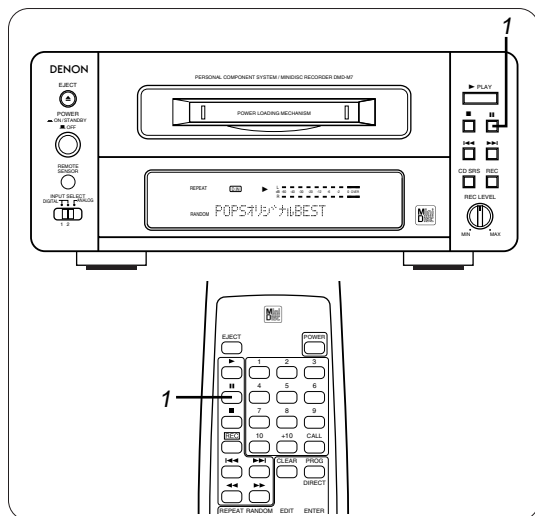
また、ディスクに収録されている最終曲の再生が終わると、自動的に停止します。

11 いろいろな再生のしかた

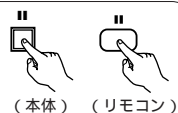
(1) 再生途中で一時的に止めておくとき

『ポーズ』

再生の途中で一時再生を止め、再びその位置から聞くことができます。



再生中にポーズボタンを押します。
再生が一時停止します。



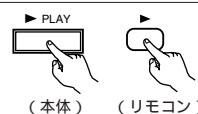
ポーズボタンを押す。

1



プレイボタンを押す。

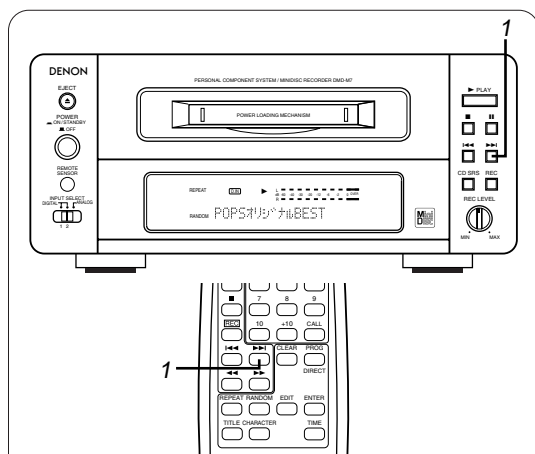
一時停止した位置から再び再生をはじめるときは、プレイボタンを押してください。



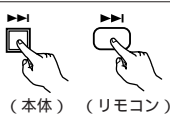
(2) 再生途中で曲の頭出しをするとき

『オートマチックサーチ』

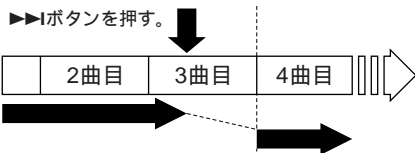
1 次の曲の頭出し



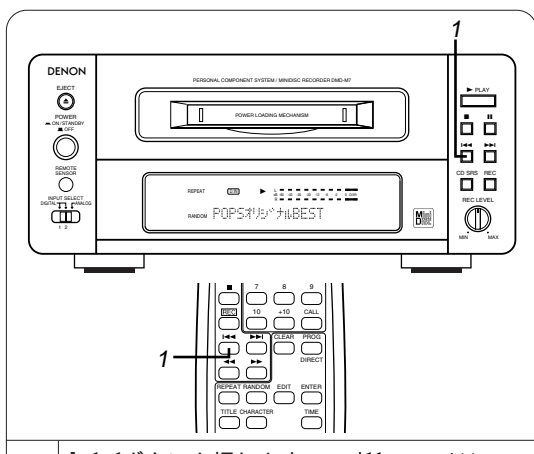
▶▶ボタンを押します。
ボタンをくり返し押すと、
次々と後ろの曲の頭出しを
おこなうことができます。



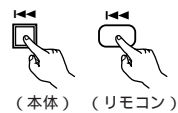
1



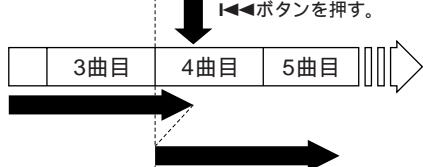
2 聞いている曲の頭出し



◀◀ボタンを押します。
ボタンをくり返し押すと、
次々と前の曲の頭出しを
おこなうことができます。



1



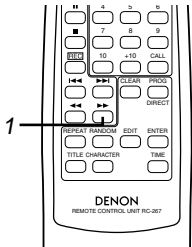
いろいろな再生のしかた(つづき)

(3) 早聞きしながら好きな部分を探すとき(リモコンのみ) 『マニュアルサーチ』

飛び飛びに早聞きすることができます。

長い曲の中から好きな部分を探して、途中から聞くときに便利です。

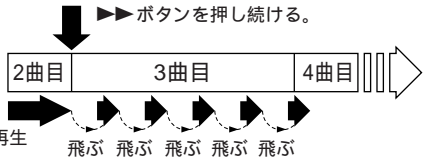
1 早送りするとき



再生中に▶▶ ボタンを押し続けます。
ボタンから指を離せば、そこから通常の再生をおこないます。

▶▶ ボタンを押し続ける。


1



再生 飛ばす 飛ばす 飛ばす 飛ばす 飛ばす

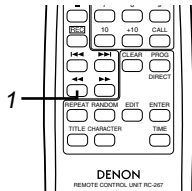
ボタンを押し続けて収録されている最終曲の再生が終わると、自動的に停止します。

音を聞かずに高速早送りをおこなうときは、一時停止中[⏸]▶▶ ボタンを押し続けてください。



(リモコン)

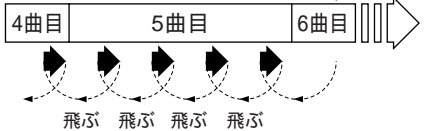
2 早戻しするとき



再生中に◀◀ ボタンを押し続けます。
ボタンから指を離せば、そこから通常の再生をおこないます。

◀◀ ボタンを押し続ける。


1



飛ばす 飛ばす 飛ばす 飛ばす

ボタンを押し続けて収録されている最初の曲の頭まで戻ると、マニュアルサーチは終了して再生をはじめます。

音を聞かずに高速早戻しをおこなうときは、一時停止中[⏸]◀◀ ボタンを押し続けてください。



(リモコン)

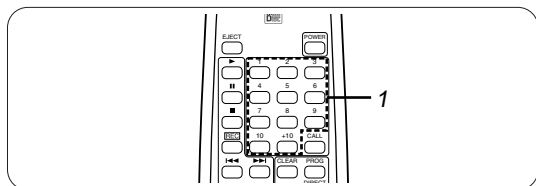
ご注意

マニュアルサーチから通常の再生に戻るときに若干音が途切れることがありますが故障ではありません。

いろいろな再生のしかた(つづき)

(4) 好きな曲を聞くととき(リモコンのみ)

『ダイレクト再生』



1

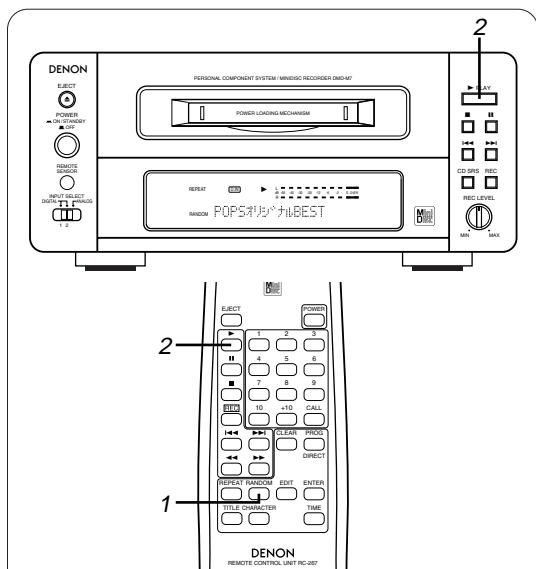
テンキーまたは+10ボタンを押して、聞きたい曲番を選びます。

例えば、4曲目を聞きたいときは[4]、12曲目を聞きたいときは[+10]、[2]、30曲目を聞きたいときは[+10]、[+10]、[10]と押してください。その曲から再生がはじまります。

(5) 順不同に聞くととき

『ランダム再生』

ディスクに収録されている曲をランダム(無作為)な順序で1回ずつ聞くことができます。



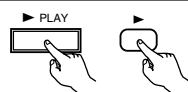
1

停止中にランダムボタンを押します。
“RANDOM”表示が点灯します。



(リモコン)

プレイボタンを押します。



ディスクに収録されている曲番が高速でくり返し表示され、自動的に選曲をして再生をはじめます。

2

リピート再生時:

一通りのランダム再生後、違った曲順でランダム再生をおこないます。以後毎回違った曲順でランダム再生が楽しめます。

ランダム再生を止めるときは、停止させてからもう一度ランダムボタンを押してください。



(リモコン)

ご注意

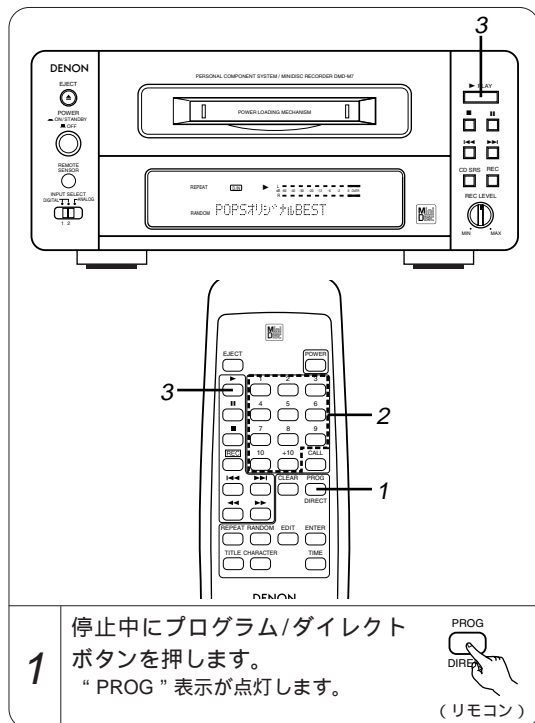
ランダム再生中に1曲リピート再生はできません。ランダム再生の全曲リピート再生中に、早送りや早戻しはできません。






いろいろな再生のしかた(つづき)

(6) 聞きたい曲を好きな順番に聞くと

『プログラム再生』

ディスクに収録されている曲の中から聞きたい曲を選び、好きな順番に聞くことができます。
最大25曲までプログラムすることができます。



2	<p>テンキーまたは+10ボタンを押して、プログラムしたい曲番を選びます。</p> <p>例えば、3曲目、12曲目、7曲目とプログラムしたい場合は、PROG/DIRECT、3、+10、2、7と押してください。</p>
3	<p>プレイボタンを押します。</p> <p>プログラムされた順に再生します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(本体)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(リモコン)</p> </div> </div>
	<p>プログラム内容を確認するときは、コールボタンを押してください。1回押すたびにプログラムされた内容が順次表示されます。</p> <p>プログラム内容を変更するときは、停止中にクリアボタンを押してから操作2をおこなってください。最後にプログラムされた曲が変更後の曲に変わります。</p> <p>プログラム内容をすべて取り消すときは、停止中にプログラム/ダイレクトボタンまたはイジェクトボタンを押してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(リモコン)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(本体)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(リモコン)</p> </div> </div>

ご注意

プログラム再生中、ダイレクト選曲はできません。テンキーを押すことによりその曲番をプログラムの最後に追加されます。

プログラム再生中に1曲リピート再生はできません。

プログラム設定中に総再生時間が256分以上になると正しい時間表示はできませんが、プログラムすることはできます。

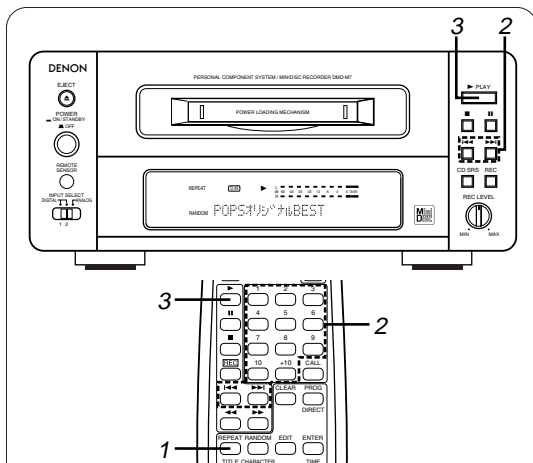
いろいろな再生のしかた(つづき)

(7) くり返して聞くととき

『リピート再生』

1 1曲のみをくり返して聞くととき

『1曲リピート再生』



1

リピートボタンを1回押します。

“ REPEAT ” 表示が点灯します。

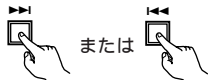


(リモコン)

2

聞きたい曲番を選びます。

(本体)



(リモコン)



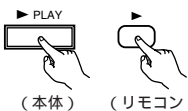
またはテンキー

3

プレイボタンを押します。

選択された曲の再生をはじめます。

選択された曲の再生が終わると、その曲の頭に戻って再生をくり返します。



リピートボタンを1回押す。



この動作を何回もくり返す。

再生中およびプログラム再生中にリピートボタンを1回押された場合も、再生中の曲を1曲リピート再生します。

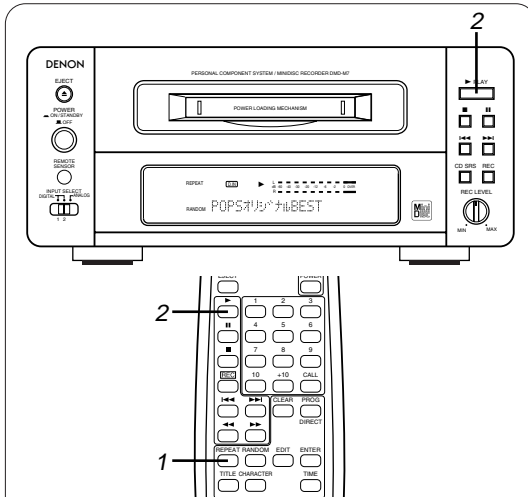
1曲リピート再生を止めるときは、“ REPEAT ” 表示が消灯するまでリピートボタンを押してください。



(リモコン)

2 全曲をくり返して聞くととき

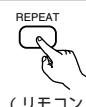
『全曲リピート再生』



1

リピートボタンを続けて2回押します。

“ REPEAT ALL ” 表示が点灯します。



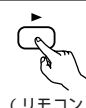
(リモコン)

2

プレイボタンを押します。



(本体)

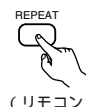


(リモコン)

再生中にリピートボタンを押された場合も、再生中のディスクを全曲リピート再生します。

プログラム再生中にリピートボタンを2回押された場合は、プログラムされた順に再生をくり返します。

全曲リピート再生を止めるときは、“ REPEAT ” 表示が消灯するまでリピートボタンを押してください。



(リモコン)

ご注意

プログラム再生中およびランダム再生中に1曲リピート再生はできません。

12 録音のしかた

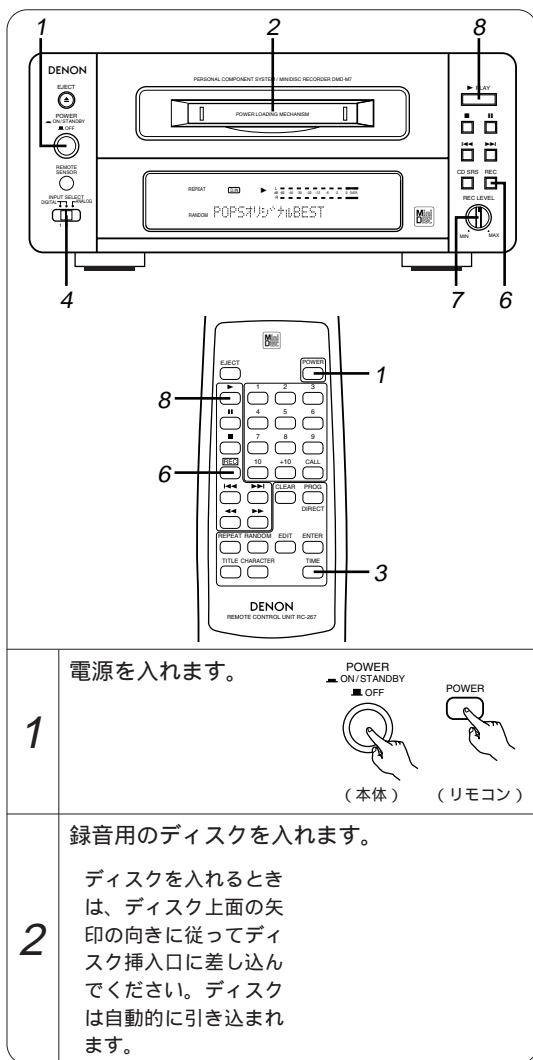
録音済みのディスクを使用するときは、残り時間にご注意ください。

録音済みのディスクの内容をすべて消去して、ディスクの頭から録音したいときは全曲消去操作をおこなってから録音してください。(29ページ参照)

録音をおこなうときは、誤録音/誤消去防止ツメをずらして孔を閉じてください。(17ページ参照)

(1) 録音のはじめかた

1 アナログ録音をおこなうとき

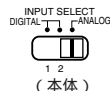


3 《録音済みのディスクを使用する場合》
録音可能時間を確認します。
ボタンを押すたびに、総再生時間と録音可能時間が交互に表示されます。



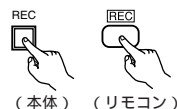
4 入力切り替えスイッチを『ANALOG』に切り替えます。

“ Analog ATM On ” が表示され、録音入力信号の無音部（約2秒）を感知すると、自動的に曲番をつけて記録します。



Analog ATM On

5 録音ボタンを押します。
録音一時停止状態になります。



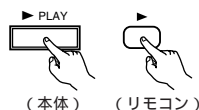
6 CDオートチェンジャー、カセットデッキなどで録音したい曲を再生します。

7 録音レベルを調整します。
レベルメーターが“ OVER ”表示まで点灯しないように調整してください。



調整が終わったら録音したい曲をスタンバイ状態にします。

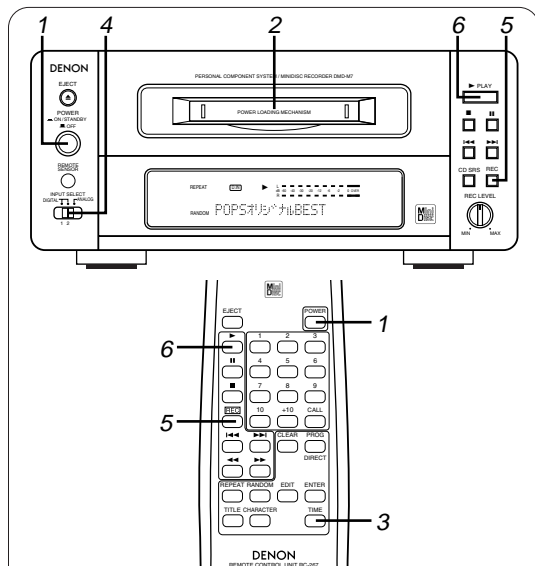
8 プレイボタンを押します。
録音をはじめます。



9 CDオートチェンジャー、カセットデッキなどで録音したい曲を再生します。

録音のしかた(つづき)

2 デジタル録音をおこなうとき



1 電源を入れます。

2 ディスクを入れるときは、ディスク上面の矢印の向きに従ってディスク挿入口に差し込んでください。ディスクは自動的に引き込まれます。

3

4

5

6

DENON REMOTE CONTROL UNIT RC-017

3 《録音済みのディスクを使用する場合》
録音可能時間を確認します。
ボタンを押すたびに、総再生時間と録音可能時間が交互に表示されます。
(リモコン)

4 入力切り替えスイッチを『DIGITAL 1または2』に切り替えます。
“Optical 1 IN”、または“Optical 2 IN”が表示されます。
(本体)

5 録音ボタンを押します。
録音一時停止状態になります。
(本体) (リモコン)

6 プレイボタンを押します。
録音をはじめます。
(本体) (リモコン)

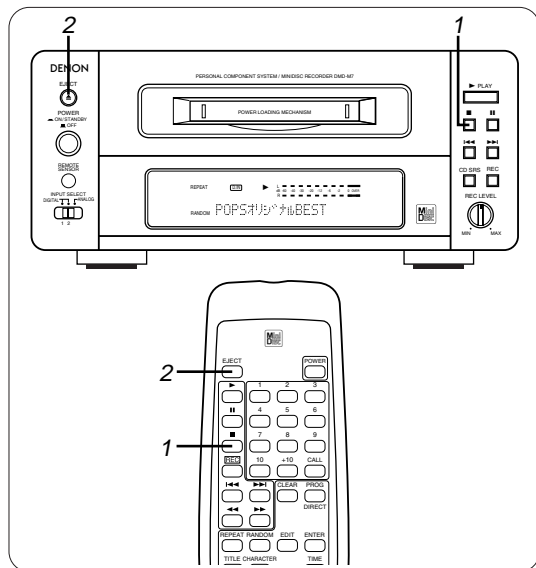
7 CDオートチェンジャー、カセットデッキなどで録音したい曲を再生します。

ご注意

D-M7シリーズとシステム接続をしてCDオートチェンジャーまたはカセットデッキで再生された曲を録音するときは、『システム機能について』の(4) CDシンクロ録音機能(38、39ページ)または(5) 同時録音機能(39、40ページ)の操作をおこなってください。

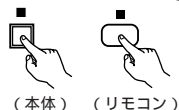
録音のしかた(つづき)

(2) 録音の止めかた



録音中にストップボタンを押します。

録音が停止します。



また、ディスクに録音可能な時間いっぱいの録音がされると、自動的に停止します。

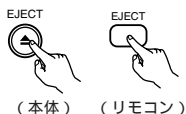
イジェクトボタンを押して、ディスクへの書き込み動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。

書き込みをはじめると“TOC”表示が点滅します。

このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

記録された内容が損なわれたり、正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。



ご注意

デジタル録音をおこなうときは、録音レベルの調整は必要ありません。録音レベル調整つまみ(REC LEVEL)を変えても録音レベルは変わりません。

CDやMDからのデジタル録音では、曲番も自動的に記録されます。(CDまたはMDの録音内容やCDプレーヤーなどの機器によっては、曲番がCDまたはMDと異なる場合があります。)

CDまたはMDからの録音時にCDまたはMDの再生がはじまると、曲番が1つ繰り上がる場合があります。このような場合は、不要な曲番を消去(ERASE)してください。(28、29ページ参照)

デジタル入力信号のサンプリング周波数がMD(44.1kHz)と異なるDATや衛星放送(32kHz、48kHz)の場合は、自動的にサンプリング周波数を44.1kHzに変換して録音されます。

CD、MD以外のデジタル録音では、自動的に無音部を感知して曲番をつけて録音されます。

CDまたはMDからのデジタル録音で同じ曲を続けてプログラムしたり、1曲リピート再生をした場合、曲番が切り替わらないことがあります。

本機では、モノラル録音はできません。

デジタル録音をおこなったMDからさらにデジタル録音をおこなうことはできません。本機はシリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)に準拠しています。(シリアルコピーマネージメントシステムとは、各種デジタルオーディオ機器間でのデジタル信号どうしの複製を『1世代まで』と規制したものです。)デジタル録音をおこなったMDを録音するときは、アナログ録音をしてください。

BS/CSチューナー、DATデッキなどをデジタル接続で録音するとき、

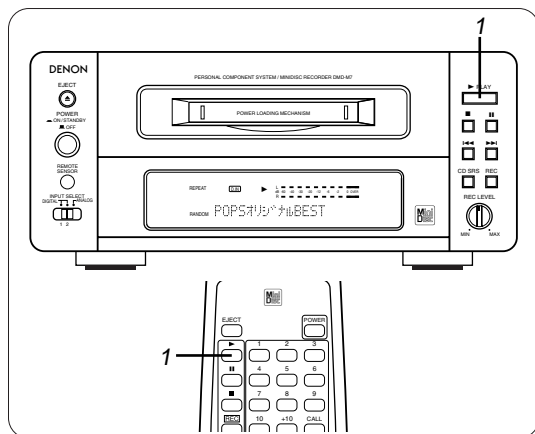
- ・曲間の無音部分の雑音が大きいときには、曲番が正しく記録されないことがあります。
- ・また、曲中の信号レベルが極めて低いときに、曲番が記録されることがあります。

このようなときは、録音が終わった後で編集操作をおこなってください。(28～32ページ参照)

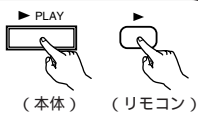
13 いろいろな録音のしかた

(1) 録音中に曲番をつけるとき

録音中、録音モード（ANALOG、DIGITAL 1,2）に関わらず、曲番をつけることができます。

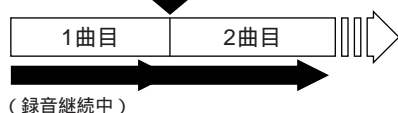


録音中にプレイボタンを押します。
ボタンが押されたところで曲番が変わります。



1

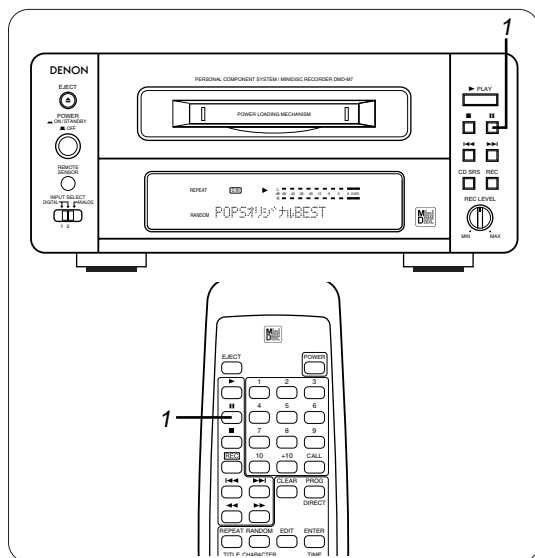
プレイボタンを押す。



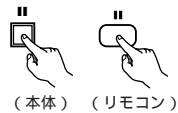
曲番を切り替えてから約3秒間は、曲番を切り替えることはできません。

(2) 録音途中で一時的に止めておくとき

録音の途中で録音を一時止め、再びその位置から録音をおこなうことができます。



録音中にポーズボタンを押します。
ボタンが押されたところで一時停止し、曲番が変わります。



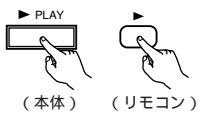
1

ポーズボタンを押す。



プレイボタンを押す。

続けて録音するときは、プレイボタンを押してください。



ご注意

録音終了後は、一旦イジェクトボタン（▲）を押してTOC情報をディスクに書き込ませてから再び動作させてください。

TOC情報の書き込みは、イジェクトボタン（▲）を押してディスクを排出する操作とリモコンの電源ボタン（POWER）を押して電源をスタンバイ状態にする操作でおこなわれます。

書き込みをはじめると「TOC」表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音や編集された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

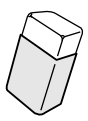


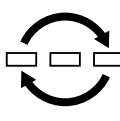
14 編集のしかた

編集機能を使用すると、曲番をつけたり、曲をつないだり、不要な部分を消したりすることができます。また、ディスクや曲ごとにタイトルをつけることもできます。いろいろなミニディスクの便利な編集操作を存分にお楽しみいただけます。

(1) 編集のしかた

本機の編集機能には、次の4つのはたらきがあります。

編集機能 (EDIT)

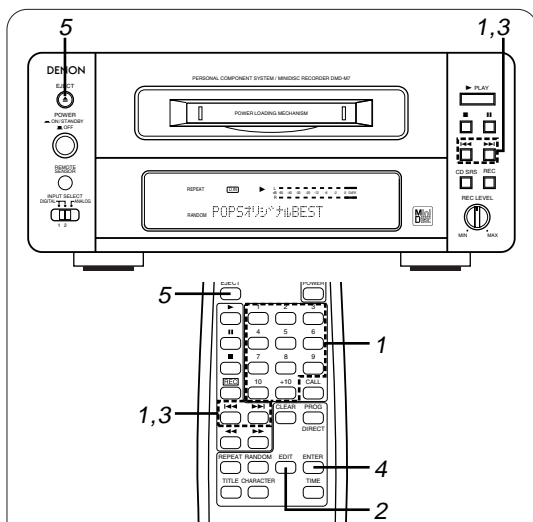
			
ERASE	DIVIDE	COMBINE	MOVE
1 曲消去 全曲消去	曲の分割	曲の結合	曲の移動

4つの編集機能を組み合わせて使用することで、様々な編集が可能となります。

編集およびタイトル入力をおこなうときは、誤録音/誤消去防止ツメをずらして孔を閉じて録音できる状態にしてください。

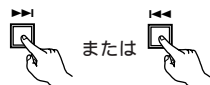
1 曲を消去するには

【1曲ずつ消去する】

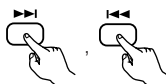


停止中に消去したい曲番を表示させます。

(本体)



(リモコン)



一時停止中の曲を消去するときは、この操作は不要です。
テンキーで曲番を選ぶ場合はポーズボタンを押してください。

2

エディットボタンを押します。

“Edit Mode” が表示されます。

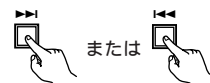


(リモコン)

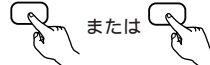
3

“Track Erase?” を表示させます。

(本体)



(リモコン)



4

エンターボタンを押して、曲の消去を確定します。

“Complete” が表示されます。

動作が完了すると停止します。

一時停止中はその曲が消去されます。

一時停止中に曲の消去をおこなうと、消去終了後停止します。

曲が消去されると、消去された曲の後ろの曲番が順に前詰めされた番号に変わります。



(リモコン)

5

イジェクトボタンを押して、曲の消去動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。

書き込みをはじめると

“TOC” 表示が点滅しま

すので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しく消去されない場合があります。

TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン (POWER) を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。



(本体)



(リモコン)

編集のしかた(つづき)

2曲以上の消去をおこなうときは、曲番の大きい方から消去すると予め消そうとした曲番を指定して消去することができます。

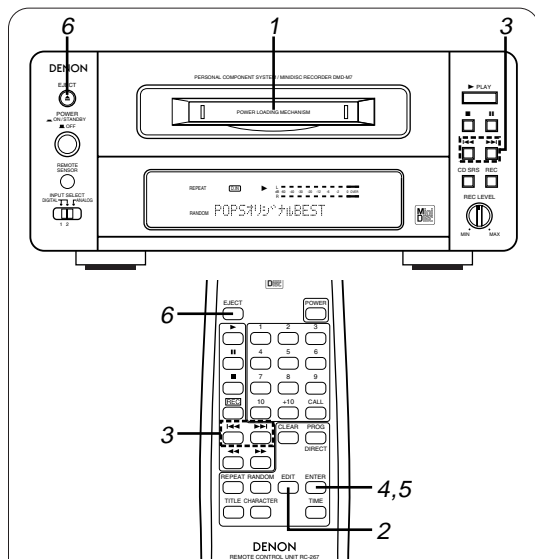
1曲の消去を止めるときは、操作4の前にストップボタンまたはクリアボタンを押して、“Track Erase?”表示を消してください。



ご注意

一度消去された曲は、元には戻りません。必ず確認してから消去してください。

【全曲を消去する】



1 ディスク挿入口に全曲消去をおこなうディスクを入れます。

2 停止中にエディットボタンを押します。
“Edit Mode”が表示されます。

(リモコン)

3 “ALL Erase?”を表示させます。

(本体) または (リモコン)

(リモコン) または (リモコン)

4

エンターボタンを押します。
“Erase OK?”と確認のメッセージが表示されます。



5

もう一度エンターボタンを押して、すべての曲の消去を確認します。



6

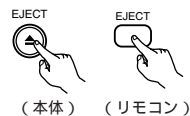
イジェクトボタンを押して、すべての曲の消去動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。

書き込みをはじめると “TOC”表示が点滅します。

すので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

正しく消去されない場合があります。TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。



“ALL Erase?”による消去では、全曲消去すると同時にディスク名も消去されます。

全曲消去を止めるときは、操作5の前にストップボタンまたはクリアボタンを押して、“ALL Erase?”または“Erase OK?”表示を消してください。



ご注意

一度消去された曲は、元には戻りません。必ず確認してから消去してください。

編集のしかた(つづき)

2 曲を分割するには

録音後に曲を分割して曲番をつけることができます。

好きなところで曲番をつけることができ、選曲を簡単におこなうことができるようになります。



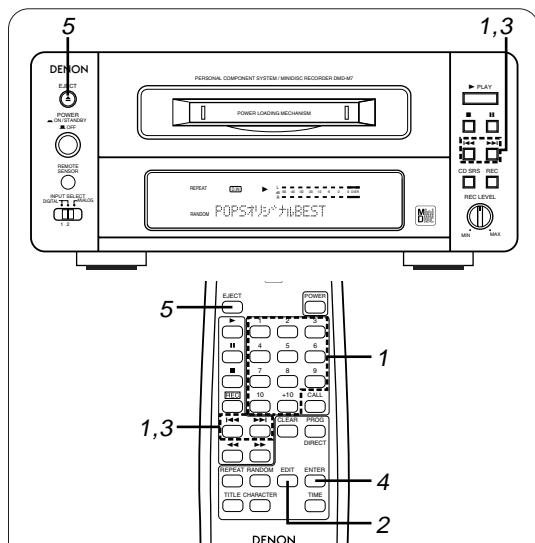
1	曲を分割したい位置で一時停止させます。		
2	停止中にエディットボタンを押します。 “Edit Mode”が表示されます。		(リモコン)
3	“Divide?”を表示させます。	(本体)	または
	(リモコン)	または	

4	エンターボタンを押して、曲の分割を確定します。		(リモコン)
5	イジェクトボタンを押して、すべての曲の分割動作を完了させます。 TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。 書き込みをはじめる “TOC”表示が点滅します。 すので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。 正しく分割されない場合があります。 TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。		
	曲名がついている曲を分割したときは、分割された両方の曲に同じ曲名がつきます。 分割された曲を元に戻すときは、『曲を結合するには』(31ページ)を参照してください。 曲の分割を止めるときは、操作4の前にストップボタンまたはクリアーボタンを押して、“Divide?”表示を消してください。		
		または	(リモコン)

編集のしかた(つづき)

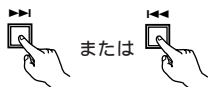
3 曲を結合するには

連続した2つの曲をつないで1曲にすることができます。



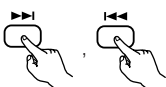
停止中に結合したい2つの曲の曲番の大きい方を表示させます。

(本体)



または

(リモコン)



テンキーを使い曲番を選ぶ場合はポーズボタンを押してください。

2 エディットボタンを押します。
“Edit Mode”が表示されます。



3 “Combine?”を表示させます。

(本体)



または

(リモコン)



または

4

エンターボタンを押して、曲の結合を確定します。



(リモコン)

5

イジェクトボタンを押して、曲の結合動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。

書き込みははじめると

“TOC”表示が点滅しま

すので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しく分割されない場合があります。

TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。



(本体)



(リモコン)

一時停止中でも曲を結合することができます。この場合、一時停止している曲とその前の曲が結合されます。

曲名は結合したい2つの曲の曲番が小さい曲のものになります。ただし、その曲に曲名がついていないときは後ろの曲の曲名がつかます。

結合された曲を元に戻すときは、『曲を分割するには』(30ページ)を参照してください。

曲の結合を止めるときは、操作4の前にストップボタンまたはクリアボタンを押して、“Combine?”表示を消してください。



(本体)



(リモコン)



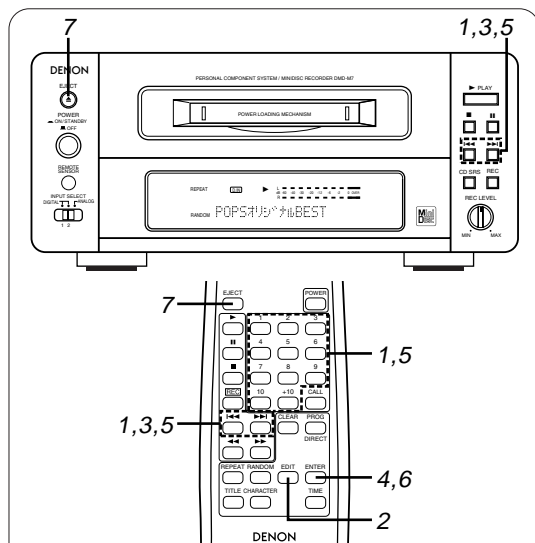
(リモコン)

ご注意

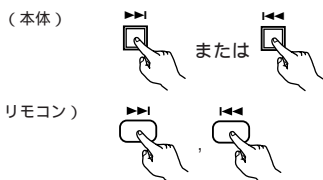
デジタル入力から録音された曲とアナログ入力から録音された曲を結合することはできません。15秒以下の短い曲では結合できないことがあります。

編集のしかた(つづき)

4 曲を移動するには



停止中に移動したい曲番を表示させます。

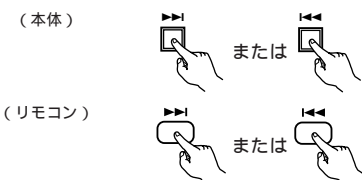


テンキーを使い曲番を選ぶ場合はポーズボタンを押してください。

2 エディットボタンを押します。
“Edit Mode”が表示されます。



3 “Move?”を表示させます。



4 “ Tr Move Tr?”を表示させます。 ENTER

5 移動後の曲番を指定します。
(本体) または
(リモコン) またはテンキー

6 エンターボタンを押して、曲の移動を確定します。 ENTER

7 イジェクトボタンを押して、曲の移動動作を完了させます。
TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。
書き込みをはじめると “(TOC)”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。
正しく移動されない場合があります。
TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。

曲の移動を止めるときは、操作6の前にストップボタンまたはクリアーボタンを押してください。



編集のしかた(つづき)

(2) 編集の応用例

4つの編集機能を使用して様々な編集ができます。ここで2つの例を取りあげます。
参考にしてオリジナルのディスクを作ってみてください。

【曲の一部を消去するには】

曲の一部を消去するときは、消したい部分に曲番をつけ、その曲を1曲ずつ消去する手順で消去します。



[例] 2曲目のBの部分を消去する場合

消したい曲の一部を分割して曲番をつける。 **DIVIDE**

曲番をつけた消したい部分を消す。 **ERASE**

分割された2曲目の『A』と『C』をつなぐ。 **COMBINE**

【離れている2つの曲をつなぐには】

[例] 曲名『A』を『C』の後につなぐ場合

曲名『A』を『C』の後ろに移動する。 **MOVE**

2曲目となった『C』と、3曲目となった『A』

をつなぐ。 **COMBINE**



編集のしかた(つづき)

イジェクトボタンを押して、ディスクへの書き込み動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。

書き込みをはじめると

“TOC”表示が点滅します。

ですので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。記録された内容が損なわれたり、正しく記録されない場合があります。

TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。

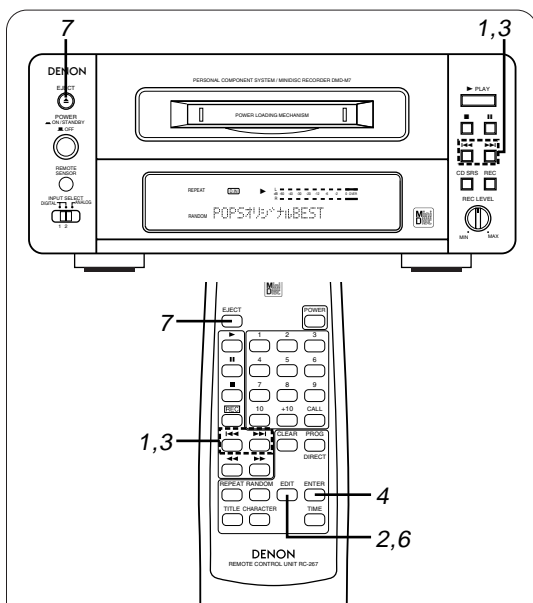
文字を消去するときは、文字を消したい文字にカーソルを合わせてからクリアーボタンを押してください。



(リモコン)

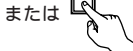
濁音(゛)または半濁音(゜)をつけた文字を消去するときは、濁音または半濁音も合わせて消去されます。文字を修正するときは、修正したい文字を消去してから再度文字を入力してください。

2 曲名をつけるには



停止中に曲番を表示させます。

(本体)



(リモコン)

テンキーを使い曲番を選ぶ場合はポーズボタンを押してください。

エディットボタンを押します。

“Edit Mode”が表示されます。

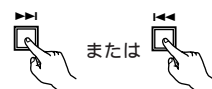
再生中、再生一時停止中、録音中または録音一時停止中にエディットボタンを押したところの曲番に曲名をつけることができます。



(リモコン)

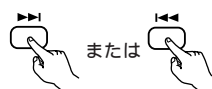
“Track Name In?”を表示させます。

(本体)



3

(リモコン)



エンターボタンを押します。

4

タイトル入力待ちを表わすカーソルが点滅します。



(リモコン)

タイトルを入力します。

5

タイトルの入力のしかたは、『ディスク名をつけるには』(34ページ)の操作5を参照してください。

エディットボタンを押して、入力した曲名を確定します。

6



(リモコン)

イジェクトボタンを押して、ディスクへの書き込み動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。

書き込みをはじめると

“TOC”表示が点滅します。

7

ですので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。記録された内容が損なわれたり、正しく記録されない場合があります。

TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。



再生中または録音中に曲名をつけるときは、曲が変わるまでに曲名をつけ終わってください。途中で曲が変わると、それまでに入力された文字は無効になります。録音一時停止中に入力された文字は、ストップボタン(■)を押すと無効になります。

編集のしかた(つづき)

ご注意

本機でつけたカタカナのタイトルは、カタカナ入力に対応していない他の機器では正しく表示されません。また一部のカタカナ入力対応機器では正しく表示されない場合があります。

ディスク名と曲名はそれぞれ100文字まで入力することができます。100文字を超えるとディスプレイに“Name Full”が表示されます。

他のミニディスクレコーダーで100文字以上入力されたディスクに本機でタイトル入力の操作をおこなうと、100文字を超える文字は消去されます。

ディスク名と曲名を合わせて約1700文字まで入力できます。文字数を超えるとディスプレイに“Name Full”が表示されます。

カタカナは1文字当たりのデータ量が多いため、入力できる文字数が英数字にくらべて少なくなります。

15 システム機能について

本機をD-M7シリーズとシステム接続をするとさらに使いやすさが向上します。(接続のしかたは、10ページを参照してください。)

D-M7シリーズの各機器を操作するシステム機能の信号は、すべてチューナーアンプ(UDRA-M7)から出力されます。従ってシステム接続するときは必ずチューナーアンプ(UDRA-M7)を接続してください。

(1) システムリモコンについて

D-M7シリーズとしてお使いになるときは、システム D-M7に付属のシステムリモコン(RC-828)で本機を操作することができます。

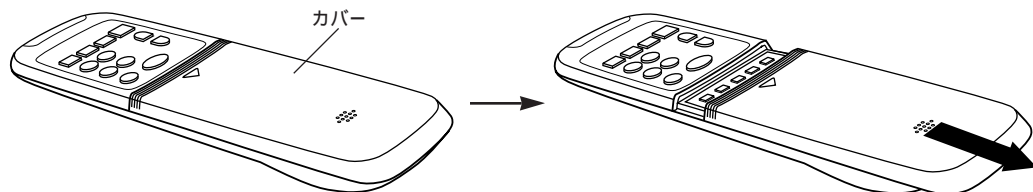
システム接続のときは、すべての機器のリモコン信号はチューナーアンプ(UDRA-M7)の受光部で受信します。

システムリモコン(RC-828)のボタンは、本体と同じはたらきをします。(11、12ページ参照)

チューナーアンプ(UDRA-M7)、CDオートチェンジャー(UDCM-M7)、カセットデッキ(DRR-M7)のはたらきについては、それぞれの取扱説明書を参照してください。

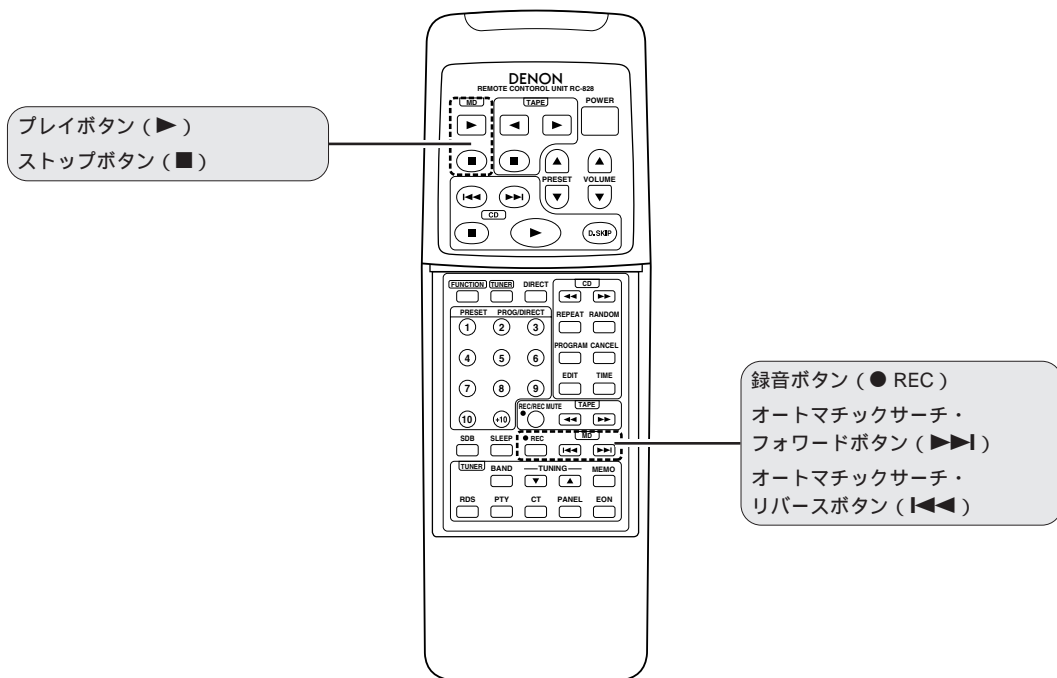
システム機能がはたらくのは、D-M7シリーズの機器を接続したときのみです。それ以外の機器を接続し

リモコンカバーの開きかた



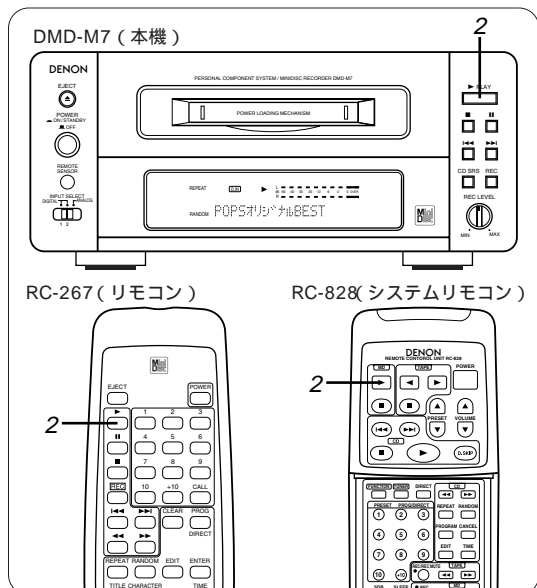
システム機能について(つづき)

リモコンボタンの名前 (MDレコーダー部)



(2) オートパワーオン機能 (UDRA-M7、DMD-M7接続時)

システム全体がスタンバイ状態のときに、本機のプレイボタン (▶) を押すだけで、MDの再生をおこなうことができます。



- システム全体がスタンバイ状態のとき、ディスク挿入口にMDを入れます。
本機のみ電源が入ります。
- 本機のプレイボタンを押します。
チューナーアンプの電源が入り、ファンクションが自動的に『MD』に切り替わります。その後、MDの再生をはじめます。



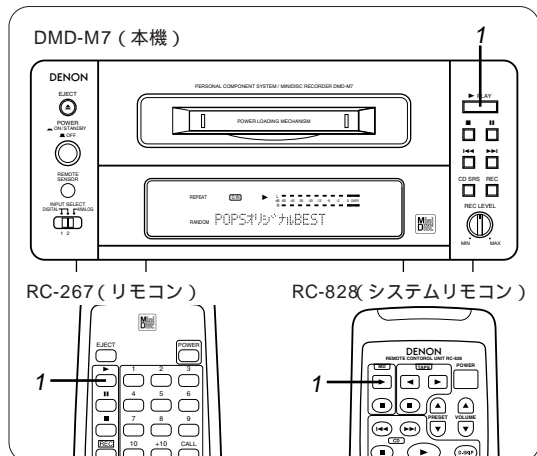
本機がスタンバイ状態でMDが装填されている場合は、本機のプレイボタンを押すだけでMDの再生をはじめます。



システム機能について(つづき)

(3) オートファンクション機能 (UDRA-M7、DMD-M7接続時)

ボタン1つの操作でファンクションを『MD』に切り替えて、MDの再生をおこなうことができます。



本機以外の機器 (CDオートチェンジャー、カセットデッキ) の再生中に本機のプレイボタンを押します。

再生中の機器が停止します。

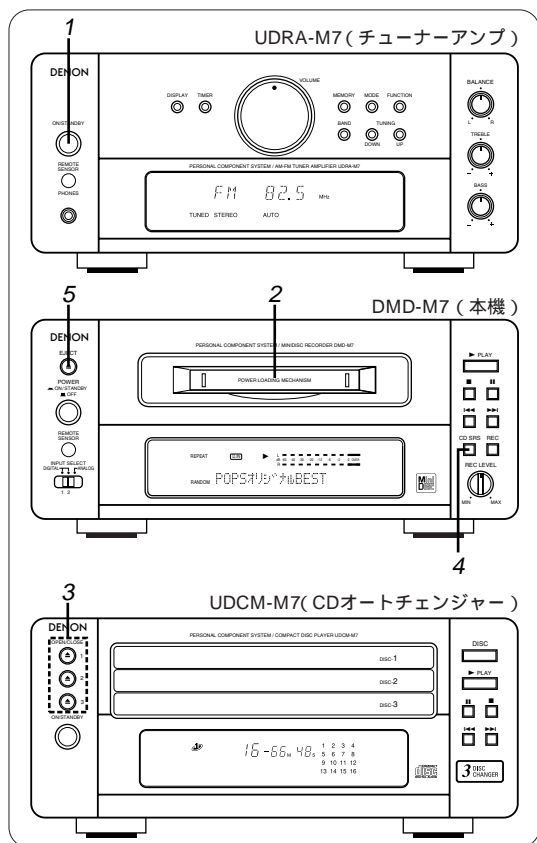
同時にチューナーアンプのファンクションが『MD』に切り替わり、MDの再生をはじめます。

1

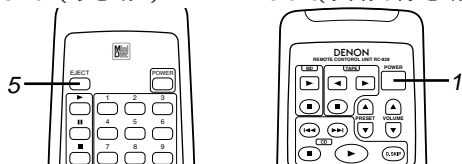


(4) CDシンクロ録音機能 (UDRA-M7、UDCM-M7、DMD-M7接続時)

CDを簡単に録音することができます。

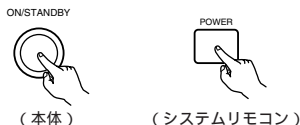


RC-267 (リモコン) RC-828 (システムリモコン)



チューナーアンプの電源を入れます。
システムの電源が入ります。

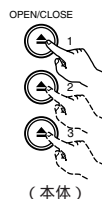
1



2 ディスク挿入口に録音をおこなうMDを入れます。

3

ディスクトレイに録音したいCDを載せます。



4

本機のCDシンクロ録音ボタンを押します。
自動的にCDの録音をはじめます。



システム機能について(つづき)

4
つづき

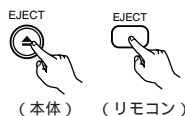
CDに収録されているすべての曲の再生が終わると、本機とMDレコーダーは自動的に停止します。また、CDの再生が終わらないうちにMD一杯に録音されたときも、本機とCDオートチェンジャーとは自動的に停止します。

5

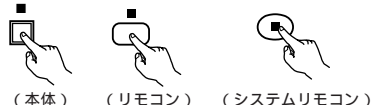
イジェクトボタンを押して、MDへの書き込み動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、MDを排出します。

書き込みをはじめる時“[TOC]”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。記録された内容が損なわれたり、正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、電源ボタン(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする操作でもおこなうことができます。



途中で録音を止めるときは、本機またはCDオートチェンジャーのストップボタンを押してCDの再生を停止させてください。



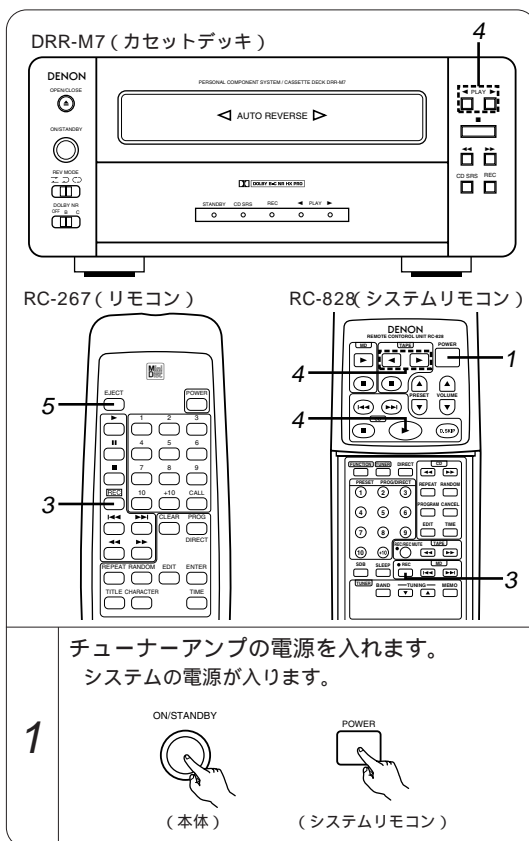
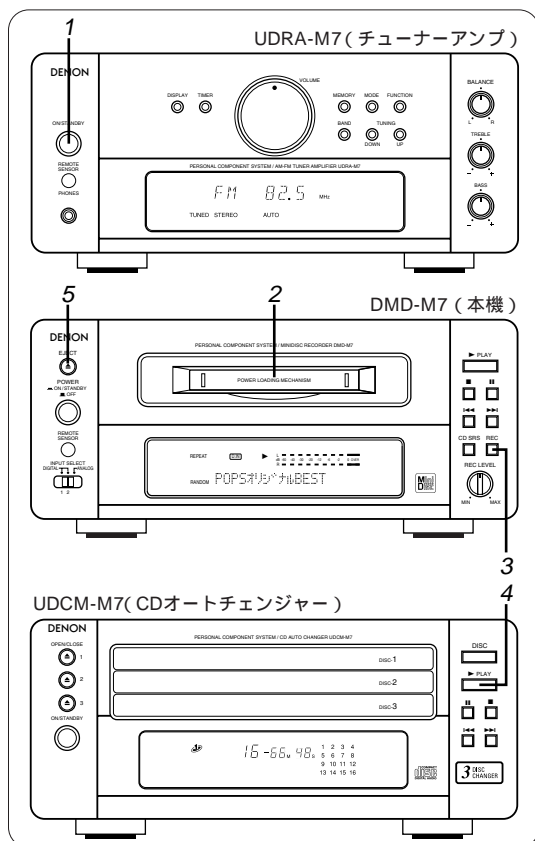
ご注意

CDオートチェンジャーがプログラム再生モード、ランダム再生モードおよびリピート再生モードのときは動作しません。

CDまたはMDの録音時にCDまたはMDの再生がはじまると、曲番が1つ繰り上がる場合があります。このような場合は、不要な曲番を消去(ERASE)してください。(28、29ページ参照)

(5) 同期録音機能(UDRA-M7、UDCM-M7、DRR-M7、DMD-M7接続時)

本機を録音一時停止状態にしてCDオートチェンジャーのプレイボタン(▶)またはカセットデッキの再生ボタン(▶または▶)を押すと、自動的に録音をはじめます。



チューナーアンプの電源を入れます。
システムの電源が入ります。



(次ページに続きます。)

システム機能について(つづき)

2 ディスク挿入口に録音をおこなうMDを入れ
ます。

3 入力切り替えスイッチを録
音したい機器が接続されて
いる場所に切り替えます。

4 本機の録音ボタンを1回押して、録音一時停
止状態にします。

5 CDオートチェンジャーのプレイボタンまた
はカセットデッキの再生ボタンを押します。
自動的に録音をはじめます。

《CDオートチェンジャー》

▶ PLAY

(本体) (システムリモコン)

《カセットデッキ》

▶ PLAY

(本体) (システムリモコン)

CDオートチェンジャーまたはカセットデッキの
再生が終わると本機は自動的に停止します。

イジェクトボタンを押して、MDへの書き込
み動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、
MDを排出します。

書き込みをはじめると
“TOC”表示が点滅しま
すので、このとき本機に
振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜
いたりしないでください。記録された内容が損な
われたり、正しく記録されない場合があります。

TOC情報の書き込みは、リモコンの電源ボタ
(POWER)を押して電源をスタンバイ状態にする
操作でもおこなうことができます。

7

途中で録音を止めるときは、CDオートチェンジャーま
たはカセットデッキのストップボタンを押してCDの再
生を停止させてください。

本機は録音一時停止状態になります。録音をやめる場
合には、本機のストップボタンを押してください。

《CDオートチェンジャー》

(本体) (システムリモコン)

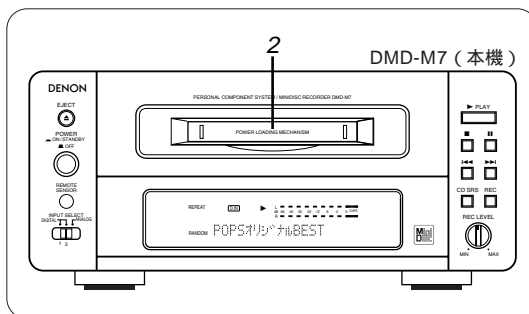
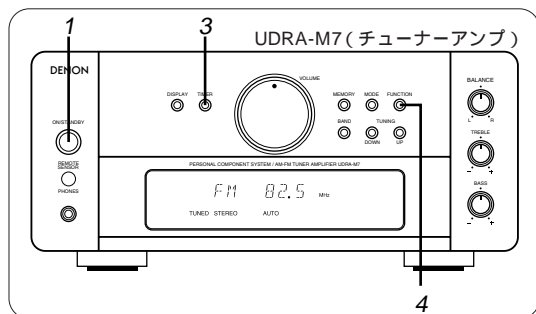
《カセットデッキ》

(本体) (システムリモコン)

(6) タイマー機能 (UDRA-M7、DMD-M7接続時)

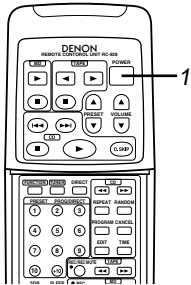
チューナーアンプ (UDRA-M7) のタイマー機能を使用して、設定された時間に再生およびラジオ放送を留
守録 (AIR CHECK) することができます。

1 タイマー再生をおこなうには



システム機能について(つづき)


RC-828
(システムリモコン)



1


チューナーアンプの電源を入れます。
システムの電源が入ります。

ON/STANDBY



(本体)

POWER



(システムリモコン)


2

ディスク挿入口にタイマー再生をおこなう
MDを入れます。

3

チューナーアンプのタイマーボタンを3秒以上押します。
タイマー予約モードになります。

TIMER




(本体)

4

選局ボタンを押してファンクションを『MD』に切り替えます。

FUNCTION



(本体)

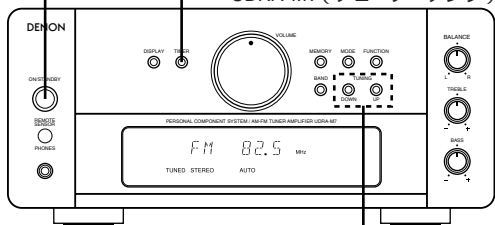
5

以下の操作は、システム D-M7に付属の取扱説明書の『エブリディタイマーの予約のしかた』を参照してください。

2 ラジオ放送を留守録するには

1

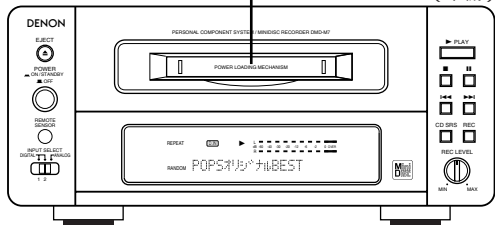
UDRA-M7(チューナーアンプ)



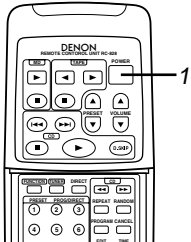
3

2

DMD-M7(本機)



RC-828
(システムリモコン)




1

1


チューナーアンプの電源を入れます。
システムの電源が入ります。

ON/STANDBY



(本体)

POWER



(システムリモコン)


2

ディスク挿入口にタイマー録音をおこなう
MDを入れます。

3

チューナーアンプのタイマーボタンを4秒以上押します。
タイマー予約モードになります。

TIMER




(本体)

4

選局ボタンを押してファンクションを『AIRCH MD』に切り替えます。

FUNCTION



(本体)

5

以下の操作は、システム D-M7に付属の取扱説明書の『エブリディタイマーの予約のしかた』を参照してください。

システム機能について（つづき）

ご注意

録音後2、3日以内にTOCの書き込みをおこなわない場合、録音された内容が消去され回復できません。
(17ページ参照)

16 ミニディスクの規格上の制約について

ミニディスクの規格は、カセットデッキなどの従来の録音方式と異なる方式でおこなわれます。そのためいくつかの規格上の制約があります。次のような現象が出ても故障ではありませんので、ご了承ください。

(1) 曲数の制約

何も録音されていないディスクやディスク名のみだけで何も録音されていないディスクに1曲目から順次録音した場合は、最大254曲まで録音できます。しかし、編集を多くくり返したりすると254曲まで録音できなくなることがあります。

デジタル録音のとき、エンファシス情報などの入切が多いと曲の区切りと同じ扱い（曲番は変わらない）になり、録音時間や曲数に関わらず録音できなくなることがあります。

(3) 編集機能の制約

編集をおこなってできた短い曲を結合できない場合があります。

録音/編集をくり返したディスクでは、マニュアルサーチ中に音が途切れることがあります。

(2) 録音機能の制約

ディスクの最大録音時間に達しなくても、曲数が254曲になると録音できません。

録音は約2秒単位でおこなわれます。それに満たない部分でも約2秒間分のディスクスペースを使用しますので、実際に録音できる時間は短くなります。ディスクに傷があるとその部分は録音できませんので、その分の時間が減ります。

CDをデジタル録音するとき、CDの録音内容により数秒程度の無音部ができることがあり、曲数がCDと異なることがあります。

短い曲を消去してもディスクの残り時間が増えないことがあります。これはディスクの残り時間を表示するとき、12秒以下の部分を無視するためです。

17 メッセージについて

お使いになられているときに使用状況によりメッセージが表示されます。
メッセージの内容は下記の通りです。

《 メッセージ表示 》	《 メッセージの内容 》
TOC Reading	TOCを読み込んでいます。
Blank Disc	何も録音されていないディスクが入っています。
Complete	編集が完了しました。
Copy Prohibit	SCMS（シリアルコピー・マネージメント・システム）により、デジタルコピー禁止のソースです。
Digital Unlock	デジタル録音時にデジタル入力端子の接続が不完全なため、または他の障害により入力信号が正常に入力されていません。
Disc Err (は数字や文字です。)	ディスクに傷がついているため、データが読めません。または、TOCがミニディスクに書き込まれていないか、データに異常があります。
Disc Full	ディスクの残り時間がなくなりました。 トラック数が254曲を超えてしまいました。
Impossible	実行できない操作をおこなっています。
No Name	タイトル文字入力がされていません。
No Track	ディスク名はありますが、曲が入っていません。
Playback Only	再生専用ディスクに録音や編集の操作をおこなっています。
Protected	ディスクが誤録音防止状態になっています。
Name Full	ディスク名/曲名が100文字を超えています。 または、ディスク名および曲名として入力した文字の合計が約1700文字を超えています。
TrackProtected	編集できない曲です。
Disc ?	データに異常があります。または、規格外のミニディスクです。
TOC Err (は数字や文字です。)	ディスクに傷がついているため、TOC情報が読めません。 または、規格外のミニディスクです。
Can't REC	ショックやディスクの傷で正しく録音できませんでした。
Temp Over	温度が高くなりすぎました。電源を切り、本機の温度が下がるまでしばらくお待ちください。
Defect	ディスクに傷があるため、録音が途切れてしまいました。
Mech Err (は数字や文字です。)	ミニディスクが正しく動作していません。
Not Audio	オーディオ用でないデータが記録されています。
UTOC W Err	ショックやディスクの傷でTOC情報が正しく作成できませんでした。
UTOC Err (は数字や文字です。)	記録されているTOC情報がミニディスクの規格に合っていないか、他の障害により読むことができません。
Focus Err	ディスクに傷があります。または、振動の多い不安定な場所で使用しているため、正常な動作ができません。

18 故障かな？と思ったら

故障？ と思っても、もう一度確かめてみましょう

各接続は正しいですか
取扱説明書に従って正しく操作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は、本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きとり、お買い上げ販売店または最寄りの当社営業所にご連絡ください。

現 象	原 因	処 置	関連 ページ
操作できない。	ディスクが入っていますか。 ディスクが損傷または汚れていませんか。	ディスクを入れてください。 他のディスクと取り替えてください。	18 —
再生できない。	接続が間違っていないですか。 ディスクに録音されてありますか。 （“ Blank Disc ” または “ No Track ” が表示されます。）	接続を確認してください。 録音されているディスクと取り替えてください。	10 43
録音できない。	ディスクが録音防止状態になっていませんか。 （“ Protected ” が表示されます。） ディスクに残り時間がありますか。 （“ Disc Full ” が表示されます。） 254曲収録されたディスクに録音しようとしていませんか。 （“ Disc Full ” が表示されます。） デジタル録音されたソースをデジタル録音しようとしていませんか。 （“ Copy Prohibit ” が表示されます。） 入力切り替えスイッチの設定が間違っていないですか。 録音レベル調整つまみ（REC LEVEL）が絞られていませんか。	ディスクの誤録音/誤消去防止ツメをずらして、孔を閉じた状態にしてください。 ディスクを取り替えてください。 不要な部分があれば消去して消去して録音時間を確保してください。 ディスクを取り替えてください。 不要な部分があれば消去して消去して録音時間を確保してください。 アナログ録音をしてください。 録音入力モードを確認してください。 録音レベル調整つまみ（REC LEVEL）を調整してください。（アナログ録音のみ）	17、43 43 43 26、43 24、25 24

19 主な仕様

形 式	ミニディスク デジタル オーディオシステム
ワウ・フラッター	測定限界 (± 0.001% W.Peak) 以下
標 本 化 周 波 数	44.1kHz
録 音 方 式	磁界変調オーバーライト方式
光 源	半導体
電 源	AC100V 50/60Hz
消 費 電 力	14W (電気用品取締法による)
最 大 外 形 寸 法	210 (幅) × 94 (高さ) × 317 (奥行き) mm (フット、つまミ、端子を含む)
質 量	2.5kg
リモコンユニット	RC-267
リ モ コ ン 方 式	赤外線パルス式
ボ タ ン 数	31ボタン
電 源	DC3V 単3形乾電池2本使用
最 大 外 形 寸 法	54 (幅) × 155 (高さ) × 29 (奥行き) mm
質 量	100g (乾電池を含む)

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

本機は国内仕様です。

必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。



ドルビーラバトリーズライセンシングコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先

(社) 私的録音補償金管理協会

TEL.03 (3506) 8407

MEMO

MEMO

日本コロムビア株式会社

本 社 〒107-11 東京都港区赤坂4-14-14
TEL : (03) 3584-8111 (大代表)

後日のために記入しておいてください。

購 入 店 名 : 電 話 (- -)

ご購入年月日 : 年 月 日